道徳だより

2025.9.24 号
みよし市立緑丘小学校

４年生「ほんとうに上手な乗り方とは」(内容項目Ａ節度、節制)

ねらい

今回の授業では【身の回りの安全に気を付け、先を見通すなど自分でよく考えて行動することが、安全な生活の実現につながることを理解して、節度ある生活を送ろうとする意欲を育てる】ことをねらいとして授業を進めました。

授業の様子

はじめに「生活していて危ないと思ったことはありますか」と問いかけると**「前方に集中しすぎて、階段でこけそうになった」「ダンスのターンの練習で隣の子にぶつかりそうになった」**など生活の中でのヒヤッとしたことを思い出してもらいました。そこで今日の道徳では**「安全に生活を送るために大切な心は何だろう」**というめあてで考え合うことを伝えました。教材を読み、主人公「はるき」さんの気持ちや思いを考えていきました。

教材文の概要

主人公の【はるき】は自転車に乗るのが得意な４年生です。学校で毎年行われる交通安全協会が主催する交通安全教室での説明も途中から上の空で聞いていました。説明の後の自転車を使った練習では、みんなに褒められ、得意になって乗っていました。次の日の土曜日サッカーの練習。自転車に乗り、グラウンドへあわてて向かう途中に事故にあってしまいます。幸いけがも軽く家に帰ることができましたが、多くの人に心配をかけてしまいました。

「はるきさんの自転車の乗り方を見て、みんなが口々にすごいなと言っているときのはるきさんの気持ちは?」と問うと「**みんなに見られてうれしい」「こんなの簡単」「もっとスピードを出してみよう」**など「はるき」はみんなに褒めてもらいテンションが上がり、得意になっていることに共感できる意見が多く出されました。続いて、事故に遭う直前の場面では「『大丈夫。行ける』と思ったはるきはどんな思いだったのか」問うと、**「自信があるから行ける」「勝手に行けると思い込んでいた」「まだ車は遠くに見えているから大丈夫」**など気を付けようという慎重さよりも自分の腕前を過信する姿が意見として出されました。そして、事故を起こして多くの人たちに心配をかけてしまいました。次に「はるきは、交通安全協会の方の言葉（いちばん上手な乗り方は、安全に気を付けて乗ることです）を思い出しながら、どんなことに気が付いたのでしょう」と問いました。**「さらに上手に乗れるように協会の方の話を聞いておけばよかった」「安全にゆっくり行けばよかった」「調子にのるのはよくない」**など自分の思い込みでよく考えずに判断し、調子に乗って安全に気を付けることができなかった「はるき」を通して安全な生活を送るために大切なことについて考え合うことができました。